

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3971000025		
法人名	有限会社 ラッセル社		
事業所名	あっとほ一む四万十		
所在地	高知県四万十市西土佐用井734番地		
自己評価作成日	平成30年1月17日	評価結果 市町村受理日	平成30年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者との信頼関係を築き、自宅と変わらない、アットホームで過ごしやすい雰囲気作りとケアに心掛けています。

利用者の意思を尊重して、柔軟な対応ができるようにしており、生活リハビリテーションを中心に、時間に縛られるのではなく、ゆったりとした生活ができるようにして、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援をしています。外出支援にも力を入れ、ちょっとした買い物でも声をかけ誘うようにしたり、季節を感じられるような外出計画をして、実施しています。

何時でも出入りができるように、夜間以外は玄関の施錠はせず、家族や知人の面会などに柔軟に対応しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detai_1_2017_022_kihontrue&Ji_gyosyoCd=3971000025-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成30年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然に恵まれた中山間地区に位置し、中心部から少し離れた住宅地にある。近隣住民とは、職員、利用者共に顔馴染みであり、日常の散歩や買い物時には挨拶を交わし、地域の祭りやイベントに積極的に出かけて、地域交流に努めている。

職員は、「自分らしく生きられるよう、地域とのつながり、利用者への尊厳、介護の質の向上」という事業所理念の下、利用者優先のゆったりとした生活ができるケアに努めている。一人ひとりのペースに合わせ、食事の片付け時には一緒に片付けるよう声掛けをして、さりげなく利用者の自立を図る生活リハビリテーションを実践しており、利用者の機能維持につなげている。

管理者は、職員には積極的に外部研修受講等を勧め、職員が働きやすい職場環境づくりにも配慮しつつ、利用者に合わせてサービスの向上を目指して、利用者職員との笑顔が増えていくケアにつなげる努力をしている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員の見える所に理念を張っている。認知症ケアの原則も書いており、常に職員間で共有して支援につなげている。また、振り返りの話し合いも行い、理念のケアへの実践につなげている。</p>	<p>「自分らしく生きられるよう、地域とのつながり、利用者への尊厳、介護の質の向上」が主旨の理念に基づき利用者優先のケアに努め、職員同士で常に声を掛け合い、スタッフ会等で振り返りと理念の共有に努めて、実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域行事に参加し、地域に溶け込むように努力している。米は、地元で購入し、地域住民から野菜のおすそ分けもある。地域住民の理解と協力を得ており、いつでも行き来できるように声掛けしている。</p>	<p>地区会に加入し、地域の祭り等の行事に参加している。近隣住民の方とは顔なじみであり、日々の散歩時に挨拶を交わし、野菜等のおすそ分けもある。また、年1回地域のカラオケクラブの訪問があり、利用者も楽しみにしている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域貢献ができていないかは分からないが、地域住民から質問や相談があれば、対応している。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者の状況や、事業所の取り組みを報告し、意見交換している。地域行事や市の予定などを聞き、利用者に参加している。</p>	<p>会議では、近況報告を行い、外部評価結果、事業所課題についても報告している。前回の外部評価を受けて改善に努めているが、報告に留まり、意見交換が活発に行われていない。また、会議録に意見交換の記録がない。</p>	<p>会議の議題を事業所から提案し、率直な意見交換が行われることと、会議録に意見交換の状況と結果を記載していくことを期待したい。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市職員とは、介護認定調査での来訪時や運営推進会議時に、事業所の現況を話したり、情報をもったりしている。何かあればすぐに電話連絡し、意見を聞くなど協力関係が築かれている。</p>	<p>運営推進会議や介護認定調査時に事業所の状況を伝えている。利用者や病院の医師のことなど、運営上必要な時には電話連絡するなどして、日常的に相談しやすい関係を築いている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については、職員全員が行わないことを徹底している。どのようなことが拘束になるかを話し合い、実践できるようにしている。</p>	<p>職員は、身体拘束に関する資料配付や内部研修を受け、禁止の対象となる具体的な行為の理解に努めている。転倒防止のためのセンサーマットや柵なども使用しないケアに取り組み、リスクに対しては家族の同意を得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議などで話し合い、虐待防止に努めている。現在職員数が少なく、講習会や勉強会に参加できていないが、高齢者虐待の報道があると、その都度職員間で話し合っ て、気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の制度利用がある場合には、管理者が市等、関係各所と相談して対応する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の考え方や取り組みを説明している。退居を含め、事業所が対応できることについて説明をし、家族からの疑問点を聞いて、十分に説明する時間を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会については設けていない。家族の来訪時に、意見や要望を聞いている。	家族には、月1回の利用料支払い訪問時に、利用者の日頃の写真を見てもらいながら様子を伝え、意見、要望等を聞くようにしている。また、事業所の行事にも3、4人の家族参加があるが意見等はなく、家族だけの話し合い場も設定していない。	事業所行事への家族参加を積極的に声かけし、家族だけで話し合う場を設けて、家族からより多くの意見、要望を聞き取り、ケアに活かすことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者ごとに担当職員を決め、スタッフ会議で職員の意見を聞いている。また、職員間では日々の申し送りや気づきなど話し合い、ケアに反映させている。	月1回のスタッフ会に代表者も参加し、勤務時間や手当のことなども協議され、改善されている。利用者が過ごしやすいための紙パンツの変更や、利用者が座るテーブルの位置変更など、職員の多くの意見がケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフ会議に参加して職員とのコミュニケーションを図り、意見などを聞いて、職場環境整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市社会福祉協議会、市からの研修情報を得て、職員の意見を聞いて、職員個々の研修参加ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム担当者会議に参加したり、他事業所の納涼祭や、市の福祉大会に参加して、交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問して本人の生活状況を見たり、家族の意見を聞いたりして、入所時から安心して利用してもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問して、本人、家族の要望や思いを聞いて、事業所でのサービスや、対応できるかなどの説明協議をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の聞き取り訪問や、関係する専門職の人たちと連携して、迅速な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることは、してもらっている。掃除を一緒にしたり、洗濯物をたたんだり、食事の準備をするなど、お互いが協働して過ごせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の協力が必要なときには、利用者の状況を伝えて相談をして、本人が安心して生活できるように情報を共有したうえで協力を得て、対応している。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者の馴染みの友人、知人の訪問があるときには、ゆっくりと話ができるようにして、気軽にいつでも来てもらえる雰囲気づくりに努めている。外出支援においても、馴染みのスーパーへ買い物に出かけたり、知り合いに会うと会話をしたりして、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。</p>	<p>地域の祭り等の行事に利用者と一緒に参加し、自宅近くに行った時には地元の方と会話したり、道の駅、スーパー等に買い物に行ったりと、馴染みの場所や人との関係継続支援に努めている。2名の利用者は馴染みの美容院による送迎支援があり、継続して利用している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>地域行事に参加するほか、ドライブで地元に行ったりもして、本人や家族の要望にできるだけ対応できるように心がけている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他施設に移った利用者の様子を見に行ったりしている。家族を見かけたりすれば声掛けをして、近況を聞いたりもしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の表情や言葉から意思の疎通に努め、なんでも気さくに話できるように努めている。また、家族や関係機関から情報を得て、本人の意向に添えるように心がけている。</p>	<p>会話を通じての意思疎通が難しい利用者が3名いるが、状態を見ながら、表情、しぐさから思いを感じ取れるようにしている。利用者の日々の変化は、朝、夕の申し送り時に職員間で情報共有し、個人ケース記録に記載して、ケアプランに活かしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前訪問を行い、本人の生活状況などを聞いている。入所時には他の関係機関などからも情報を得て、今までの暮らしぶりを把握している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、個人のケース記録やサービスチェック表などを確認して、個々の利用者の現状を把握している。日々の申し送りなどでは、気づいたことなどの報告をし、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人はもちろん、家族の思いや意見を聞いて、介護計画に反映させている。介護計画については、日々の申し送りやスタッフ会議、ケアカンファレンスなどで話し合っている。また医療行為が必要になった場合には、医師や看護師の意見を聞き協議している。	入所して1ヶ月後、以後は3ヶ月毎、状態変化時にはその都度見直すこととし、ケアマネジャーによるモニタリング結果や本人、家族、担当職員からの情報をもとに、ケアカンファレンスを行い、利用者のよりよい生活を配慮した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子などは、個人記録に午前と午後に記録している。夜間については一人なので、詳しく記録するようにしている。問題などあれば直ぐに職員間で話し合い、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた必要な支援に対しては、柔軟に対応している。利用者や家族の負担にならないように、臨機応変な対応ができるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望で美容院に行きたいときは、迎えに来てもらったりしている。地域のカラオケクラブに訪問してもらったりと、地域ボランティアの協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医である診療所とは、何かあれば直ぐに連絡を取り、指示を仰ぐなどの協力体制が取れている。また、家族や本人の希望するかかりつけ医がある場合には、必要な通院支援ができるように努めている。	希望により、全利用者が協力医をかかりつけ医としており、通院には職員が同行し、結果は家族に報告している。職員間では申し送りや受診記録、個人ケース記録で情報共有している。専門医受診時には、家族の希望により、同行支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職の配置がなく、また市の診療所しかないため、訪問看護が受けられない。そのため、受診時や電話連絡で診療所看護師と話しをして、必要な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した利用者が不安にならないように、できる限り面会するように努めている。医師とも連絡を取り、早期退院できるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状況により家族と連絡を取り、医師の意見を聞いて、事業所での対応が可能な限り対応している。	現在の職員体制では事業所での看取りが困難であることを家族にも説明して、納得を得ている。重度化時には、協力病院や家族と話し合い、できる限り事業所で過ごしてもらう方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署への通報訓練や救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、避難場所などを職員が把握している。地区長を通じて、地域の協力が得られるように依頼している。総合訓練やその他避難訓練を実施している。	年1回消防署立会で火災想定避難訓練を行い、年1回のシェイクアウト訓練を職員と利用者で実施している。避難訓練には、地域住民の参加は得られていない。備蓄については、飲料水は3日分用意しているが、その他については備蓄されていない。	利用者が安全に避難できるよう、地域住民の協力を得た訓練が実施できること、県の防災マニュアル等を参考に、非常時備蓄品の必要量を確認して、確保していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に掲げているように、高齢者を尊敬するという考えのもとに行動している。職員は、人生の先輩として尊敬の念を持ち、利用者一人ひとりを尊重している。言葉使いや行動にも十分注意をして、ケアに取り組んでいる。	排泄誘導時には、言葉掛けと声の大きさに配慮し、利用者には馴れ馴れしい職員の言い方があれば、職員間で注意し合っている。他の家族や外来者に対して、利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせた声掛けをし、表情や行動を読み取って、自己決定しやすい雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の一日の流れはあるが、利用者の気持ちや体調を考えて対応できるように心がけている。共同生活を考慮しつつ、可能な限り希望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の服を利用者と一緒に選んだりして、本人の意見を取り入れた支援をしている。できる限り本人に行ってもらい、職員は見守ることになっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器拭きなど、利用者ができることはしてもらうようにしている。食事については、季節のものや地元のものを使うようにしている。利用者、職員が同じテーブルに座り、会話をしたりして楽しく家庭的な雰囲気作り心がけている。	地元の食材やおすそ分けのあった野菜等を使って作っており、利用者の希望や、特別な日のメニューも提供している。利用者に合わせて、刻み食やどんぶり形式にしている。利用者はできることを手伝い、利用者と職員が会話しながら楽しく食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック表を作り個々の食事量を把握するようにしている。また、個々の好みも把握し、献立に反映させている。水分補給に関しても、お茶以外でも対応できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいの声掛けを行い、徹底している。職員は見守り介助を行っている。義歯の利用者は、夕食後週2回義歯洗浄消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で利用者個々の排泄リズム、習慣を把握し、声掛けのトイレ誘導をしている。基本的に昼間はパンツで対応し、オムツ使用者は夜間のみとして適時チェックし、パッド交換などの対応をしている。	排泄の自立した利用者は1名だが、排泄チェック表で排泄パターンを把握し、全員トイレで排泄できるよう支援している。ポータブルトイレの使用も、夜間のみとしている。オムツ使用の利用者が、入所後のトイレ誘導により紙パンツになった事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分補給に気を付けるとともに、散歩や事業所内での生活リハビリテーションで自然排便を促している。便秘の場合は医師に相談して、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けをして、本人のペースで入浴できるように努めている。2日以上入浴しない日がないように、チェック表で注意している。浴槽にも浸かれるよう、介助している。	少なくとも2日に1回は入浴するようにし、長くお湯に浸かりたい利用者など、希望に合わせた支援をしている。便失禁があったときには、いつでも足湯とシャワー浴ができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態を把握して、本人のペースに合わせて休息できるようにしている。薬剤の使用が必要な場合は、家族と相談のうえ医師の判断を仰いでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の医療情報ファイルで服薬の管理をしている。薬の変更があれば、申し送り時に伝えて確認している。薬に関しては、薬局で一包化してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に応じて、洗濯物たたみやできることへの参加をしてもらっている。おやつのコヒーなども、楽しみの一つとして取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩や、買い物への同行などの声掛けをしている。季節に応じた外出計画により、全員で外出している。他施設の納涼祭や、地区の祭りにも参加している。	車いす利用者も含めて、年1、2回全員で季節のドライブに出かけ、地域のイベント等にも参加している。天気の良い時は近所へ散歩に出かけたり、買い物にも職員と一緒に同行している。家族の協力により、外食に出る利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や必要に応じて、事業所で立て替えて一緒に買い物に行ったりしている。また、自分で支払うようにも支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった場合には、電話や手紙等が自分でできる利用者には自分で行ってもらい、できない利用者については、職員が代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の状況に応じてカーテンを引いたり、ゴーヤを植えて光の調整をしている。また、冷暖房の温度調整もしている。季節の花を活けたり、季節の行事に合わせた飾りつけをしている。	明るい共用空間には、テレビ、ソファが置かれ、利用者がゆっくりくつろげるようにしている。季節の花や飾り付けを工夫し、夏にはゴーヤのカーテンを作ったり、冬には干し柿作りをしたりと、季節が感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は、リビングのソファで話したり、テラスのベンチに座ったりしている。また、畳の間で横になることもできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前訪問で使い慣れたものや、お気に入りのものなどをもってきてもらうように話している。入所後も、写真などを持ってきてもらい飾るようにしている。	各居室には、家族の協力を得て仏壇や鏡、筆筒などが持ち込まれている。利用者が参加した歌謡ショーの写真、カレンダー等が飾られ、利用者の好みに応じた、くつろげる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段には手すりを付け、安全に歩行できるようにしている。トイレには張り紙、風呂場入り口には暖簾をするなどして、利用者が分かるように工夫している。居室入り口にはネームプレートを付け、すぐに分かるようにしている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない